

## 視察先別報告 ザンビア

### 【NGO連携無償資金協力】

### カフエ郡におけるHIV/エイズ対策事業 特定非営利活動法人 難民を助ける会 (AAR)

#### 概要

現在主流となっているHIV/エイズの治療法は、生涯にわたり薬を飲み続ける治療法だが、差別や偏見への恐れなど、さまざまな理由から治療を中断してしまう患者がいる。こうした状況に対応するため、AARでは地域のボランティアを育成し、患者の自宅への家庭訪問を行っている。治療に対する不安や無気力感を解消し、治療の継続、または治療への復帰を果たしてもらおうと努めている。

**1** 伊澤 咲弥 ザンビアは世界で最もHIV/エイズの影響が深刻な国の一つである。ザンビアの平均寿命は58歳（WHO世界保健統計2015年版より2013年時点の統計）。その中にはエイズによる死亡者も多い。AAR Japanは11年にわたりこの分野で活動を続け、治療を継続できるよう地域に根差した活動をしている。これまで治療センターを開設したり、通院状況がわかるシステムを作ったり、啓発活動を行ったりしてきたが、印象的なのはHIV陽性者の方が自らボランティアとして、HIV陽性患者の家庭を訪問し治療継続を支援していることだ。同じ境遇の人がボランティアとしてサポートしてくれるところに大きな意味があると思う。そうしたボランティアの育成支援は素晴らしいと思った。粘り強く継続的に支援する日本のNGOをザンビア人は好意的に受け止めてくれるというお話を聞き、日本を誇りに思った。

**2** 伊藤 葉子 HIVに感染している人を支援する施設で、重要な役割を果たしている現地人ボランティアの話を聞いた。彼ら自身、HIVに感染していた。今後ザンビアが発展していくうえで、感染の拡大阻止、AIDS発症防止薬の普及、偏見の解消、感染者の支援などは重要だ。しかし、ザンビアではすでに約8人に1人がHIVに感染しており、問題の解決は容易ではない。たとえば偏見や差別は根強く、パートナーや子供にすら打ち明けられることはなかなか難しいのだそうだ。私自身、話を聞く当初、身構えてしまい、隠れていた偏見に気づかされた。HIVやAIDSに対する国民の理解が問題解決のために何より必要だと感じた。

**3** 今田 澄子 現地ボランティアの老婦人は美しく光る紺地のドレスを着ていた。土埃舞う田舎路を8km自転車通ってきているという。HIV感染で人生の光を失い、その後このセンターで前向きに生きる力を取り戻した。患者に寄り添うボランティア達は、人を救いそのことで救われる。赤いジャケットの日本人NGOスタッフが、この遠い地で粘り強く困難な仕事に取り組むのも、もしかしたらそこに理由があるのだろうか。気負わず淡々と、しかしできることは何でもという印象で、AARスタッフはエイズ啓発からスモールビジネス支援までさまざまに力を尽くしていた。私の挑発的な物言いに動じず、微笑んで答えた涼やかな人、心から敬意を表しグッドラックを祈ります。



**4** 江口 辰之 AARによる、HIV患者支援活動の視察に伺った。HIV患者に対する村人の差別や、自分自身に対する差別は根強い。センターでボランティアをしているエステレさんとジョセフさんにその意義と喜びについてお話しして頂いた。

エステレさん：自分の住んでいる村にもHIV患者が一杯いて、自分もHIV患者になった。しかし強い気持ちを持ちHIVへの偏見をなくそうと思いボランティアになった。今は多くの人と話したり、患者に対しどう生きていくかを話し、触れ合うことにより自分自身も幸せになっている。

ジョセフさん：妻がHIVに感染し、その後自分もHIVに感染した。集落では差別され辛い思いをした。現在、たくさんの人にエイズについて正しく知ってもらえ、先生と呼ばれている事が幸せである。

今後さらに多くのザンビア人にHIVに対する正しい認識を知ってもらい、治療への考えが浸透することを願う。

**5** 黒川 叔乃 「明日のためにどう生きていくかを伝え続けている。」自分自身もHIVに感染しながらも、ボランティアとしてHIV患者の家庭訪問などの活動をするジョセフさん。ザンビアでは約8人に1人がHIVに感染している。薬を飲み続ければ助かる人も、差別や偏見などから治療を断念してしまうという。AARでは「患者の心に寄り添うボランティア」を育成し、治療の必要性を草の根レベルで伝えていっている。こうした現地の細かなニーズに応じた活動は、NGOが得意とする分野であり、政府機関のような大きい組織には困難な場合もあるかと思う。AARが長きに渡るザンビアでの活動で構築した信頼や地道な取り組みを見聞きしたことで「NGO連携無償資金協力」の必要性の理解が深まった。

## Republic of Zambia

- 6 河本 梨絵 まずはこの国のHIV患者の多さに、驚いた。成人感染率は12.5%、実に8人に1人が感染していることになる。難民を助ける会（AAR）の支援で運営するナンゴングエARTセンターでは、地域のボランティアが患者の定期的な通院の促進やカウンセリングを支えている。AARは、通院状況などの「見える化」やボランティアの育成、予防啓発などに取り組んでいる。AARは、センターの環境整備やボランティアの育成を行うが、実際にセンターの運営を行うのは、現地スタッフやボランティア自身。AARはあくまで裏方で、運営主体はザンビア人である、というスタンスが印象的だった。ここでもやはり、日本人がいなくなった後の活動継続が前提なのだ。
- 7 高場 希恵 今やHIV／エイズは薬を飲み続けさえすれば生きていける病気であるし、ザンビアでは治療薬も無料で配布され、数も足りている。にも関わらず、年間2万7千人もの人がエイズで亡くなっている。（国連エイズ合同計画、2013年）一生1日3回薬を飲み続けなければならないことへの精神的負担や、病気が原因で差別を受ける人々をどう支え、治療を継続してもらおうかが課題であるという。こうした課題に対して、AARの方や現地ボランティアの方は、病院に来なくなった患者の家庭訪問や、HIV／エイズの啓発活動など地道な活動を長年に渡って行っている。あの広いザンビアを自転車で走り、住所も分からないような家を探して訪問していると思うと、頭が下がる。
- 8 中里 祥子 ザンビアの保健医療はザンビア人ボランティアが大きな役割を果たしていると言う。ボランティアリーダーを務める男性は、自らもHIV陽性でありコミュニティで差別を受けた経験がある。完全に無償のボランティアで、「人の役に立ちたい」という純粋な思いが彼らの活動の支えになっていた。受診が遅れている患者の家に外向いて様子を確認し、内容をきちんと記録に残し、患者の相談にも対応する。有資格の医療従事者が不足していると言われるザンビアにおいて日本の看護職が行う保健活動と同じ活動がボランティアの手によって行われていることに感銘を受けた。NGOの介入が終了した後も自立した活動ができるよう試行錯誤するボランティアのエネルギーを感じた。
- 9 花村 さくら 日本から赴任しているNGOの方々の働きぶりに感動した。またボランティアの方の話を聞いたのが大変良かった。インタビューさせていただいた一人はご高齢の女性と中年の男性だった。エイズになったら、一日決まった量の薬を3回服用しなければならない。それが一生続くと思うと憂鬱になってしまう人がほとんどだし、家族もどうサポートしていいかわからなくなってしまう。そんなときに彼らのようなボランティア、エイズと薬と付き合い前向きに生きている人々の存在は大きい。女性は久しくエイズとその薬と付き合いっており、長生きしている。HIV感染者は、彼女の姿を見て、長生きすることを諦めず、勇気づけられる。男性は、若い奥さんがおり、床屋をしながら家族を支えている。物腰の柔らかな方で、エイズになっても、自分の人生を歩んでいけるということを教えてくれているようだった。
- 10 峰元 義人 ザンビアでは成人の12.5%、8人に1人がエイズに感染している、最も深刻な問題のひとつである。治療法はエイズの発症や進行を抑えるARV薬を毎日飲むことだけである。但し、一生。AARは服薬をいろんな理由で止めてしまう患者にあきらめずに治療を続けさせることを目的に活動している。ザンビア人ボランティアの殆どは、本人、家族が感染者又はその関係者だという。「ずっとここに居ることを前提に活動はしていない。2016年10月までと決めている。最後はザンビアの自立支援。（ザンビア人が）自分達で資金を稼ぐためのビジネスの仕方も指導している。撤退戦略を定めてやっているが、それでも結果的に11年になってしまった」AARスタッフの活動に対する熱い思いがこもった言葉だ。
- 11 蓑田 竜史 偏見や差別をなくす方法があるとしたら、教育や啓蒙活動の可能性に頼ることが大きいことは否定できない。歴史をふり返っても、完全になくなったと言える例があるのか知らないが、努力と時間がかかるのは間違いない。保健センターで働く現地人ボランティアの存在を知った。自身がHIV感染者であったり、近親者がそうであったり、同じ患者としての立場が分かり、差別や偏見で苦労してきているからこそ、啓蒙活動や治療の呼びかけをその魂から行えるのであろう。そのボランティアの方が、服薬を継続させることが困難であると語っていたが、国際協力として検査技術や薬品の提供だけでなく、この啓蒙活動を効率よく行き届かせる方策がないのかと考えてしまった。停電が起こるザンビアではアナログと電子カルテの両輪体制が広がっているそうだが、出来ることからやるというのが人の命に関わる現場では優先されるのかも知れない。